

ホームページへの掲載	
未	7月16日 掲載

# 岐阜県立岐阜農林高等学校

学校長 田中 治  
学校住所 本巣郡北方町北方150 電話 058-324-1145

1 会議の名称 令和元年度 岐阜農林高等学校 第1回学校評議員会

2 会議の構成 委員 飯尾 正澄 北方町民生委員  
今西 良共 国際園芸アカデミー学長  
高畑 清樹 元県立高等学校長  
服部 里美 大垣共立銀行南濃代理店長  
村瀬 里佳 本巣市教育委員

(委員名は五十音順)

学校側 田中 治 校長  
吉田 勇人 教頭  
伊藤 力 教頭  
高木 剛 事務部長  
三輪 孝司 教諭(教務主任)  
荻田 重睦 教諭(生徒指導主事)  
川島 茂樹 教諭(進路指導主事)  
辻 浩幸 教諭(農場長)

3 会議の目的 岐阜農林高校について地域を代表する方々から学校運営・改善のための意見をいただき、地域からの支援・協力のもと、地域に根ざし、特色と活力のある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年6月11日(火) 13:30~16:00  
岐阜県立岐阜農林高等学校 会議室  
委員4名、学校側8名が出席

5 会議の概要  
・教育活動の紹介(プロジェクト活動発表、意見発表)  
・学校施設・授業の見学  
・本校の教育方針と指導の重点および各分掌の目標について  
・意見交流

(1) テーマ : 教育活動の紹介(生徒によるプロジェクト活動発表、意見発表)

意見1 徳山唐辛子を入れたうどんを「底地辛うどん」と命名した点がよい。

意見2 豚コレラでジビエの需要が減少しており、徳山唐辛子を獣害対策に活用できるとよい。

質問1 「底地辛うどん」は量産できるのか?

回答1 うどんを量産するためには、まず、徳山唐辛子の生産量を増やす必要がある。

意見3 意見発表の生徒は、農業の面白さが達成感であることをよく認識できており、地域の農業後継者として育って欲しい。

(2) テーマ : 学校施設・授業の見学

意見1 農業に関する専門的な実験実習をしたり、様々な農作物や動物を育てたりしていることがよくわかった。

意見2 暑さに負けず、生徒が実験実習や課題研究に熱心に取り組んでいてよい。

(3) テーマ : 学校への提言と今後の課題について

質問1 企業や地域との連携による新製品の開発や販売は一時的なものなのか？

回答1 継続的なものもあり、一時的なものもある。

質問2 施設・設備の改修はできるのか？

回答2 園芸実習室の改築や本館等校舎の改修計画等があり、順次進んでいくものと考えている。

意見1 生徒は、褒められることに慣れてきている面がある。また、学校の伝統の力や校風に助けられている面があり、これらに甘えてはいけない。謙虚さを大切にして、褒められたことをどう生かし、伸ばしていくかを考えて欲しい。

ゆとり教育は悪いわけではなく、詰め込み教育の方が弊害は大きいのではないか？今の生徒はコミュニケーション能力が高い。農業高校では、プロジェクト学習や課題研究を積み重ねてきており、これらはそのまま「アクティブラーニング」に繋がるものである。

農業の中心校としての課題意識を持って、取り組んで欲しい。最近、本校の新聞記事掲載が少ないように感じる。少子化の中で、他校では挨拶指導の徹底、新しい人材や設備の導入等がなされている。働き方改革により意欲を失うことなく、「不易と流行」に留意して、ICT活用や部活動の充実に向けて取り組んで欲しい。

意見2 マクワウリアイスの味が変わったように感じる。「生産から販売まで」をもっとPRしてはどうか。

質問3 交通事故や防犯について、どのように対応しているか？

回答3 MSリーダーズ活動や登校指導を中心に、交通事故防止や防犯に取り組んでいる。校内の防犯灯は、よく整備されている。

意見3 各学科1学年1クラスであり、長く深く付き合える友人関係を育んで欲しい。

## 6 会議のまとめ

今回いただいたご意見を生かし、地域との連携を一層大切にして生徒の活躍の場を広め、専門教育の充実を図れるよう、生徒・教職員・保護者が一体となって活力ある学校づくりを推進したい。また、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「豊かな心と自立して生きる力」を育て、進路実現を図っていききたい。